

平成27年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
1 学校運営の充実	(全体レベル) 1) 教職員研修の充実を図ることで教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。 2) 教育環境を整備し、地域や社会の要請を視野に入れた特色ある学校づくりを推進する。 3) 広報活動を充実させ、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。 (下位組織レベル) ①各種教職員研修の充実 ①協働精神に満ちた教職員の組織づくり ①教職員間の情報活用能力と情報モラルの育成 ②特色ある学校づくりの推進 ②学校開放・公開、地域貢献ボランティア活動 ③マスメディアを活用した広報やホームページの充実、学校行事の公開等、積極的な情報発信	評価指標 ①-1 各種教職員研修の実施 各学期1回以上 ①-2 職員共有サーバーの利用、資産持ち出し管理シートの活用 100% ①-3 教員間の協力度を計るアンケートの実施 90%以上 ①-4 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思統一 ウィルスチェック 年6回以上 ②-1 地域に開けた開放講座の実施 年間5回以上 ②-2 地域貢献並びに地域の保全活動の実施 年間6回以上 ③-1 学校ホームページの更新並びにアクセス数 年間250回・年間40,000件 ③-2 体験入学の満足度 90%以上 (保護者を含む)	評価指標の達成度 ①-1 職員研修 10回実施 ①-2 管理シート活用 65件 ①-3 共通理解、風通しの良さ 87.7% ①-4 ウィルスチェック 3回実施 ②-1 開放講座 5講座実施 ②-2 部活動や専門教育による地域貢献活動 28回実施 ③-1 学校ホームページ更新 アクセス数 50回 アクセス数 135,294件 ③-2 生徒満足度 99.3% 保護者・職員満足度 100% 自ら希望して参加 79.2%	評定 B (所見) ・「報告・連絡・相談」の徹底を図ることができ、職員間の意思疎通がスムーズに行われた。 ・各種職員研修は、計画的に実施され、教員の資質向上につながっている。 ・学校ホームページの更新回数が少なかったため、各課に実施した行事を掲載するよう依頼し、内容の充実に努める。 ・専門教育を生かしたボランティア活動は、前年度に比べて積極的に実施することができている。今後は、参加人数を多くし、地元への貢献度をさらに高くする。 ・開かれた学校づくりを推進するため、スクールカフェや農産物販売所を積極的に運営した。2学期からは、開放講座等を加えたので充実した活動になった。 ・本年度の体験入学は、中学生、保護者とも高い満足度であったが、自ら希望して参加した割合は前年度より低かった。学校ホームページ等を充実させ、本校の魅力をもっと広報する必要がある。	・農産物販売で客単価1800円超は評価すべきである。 ・販売促進や客の固定化について、メニュー開発者など「個人」がみえたら応援する人が増えるのではないかと。個人名が難しいのであればニックネームなどでもよい。 ・ネーミングを変えたり、意図的に「売れない工夫」を考えてみてはどうか。売れない日があってもそれは生徒の学習につながるのではないかと。 ・アンケートのマンネリ化については「いいことが書きたくなる」美点業種アンケートを実施してはどうか。満足度を上げることにつながり、高校生にはよいのではないかと。 ・商品販売では、ターゲットやシーンを決めなければならない。パン屋さんコラボしてはちみつにあう食パンを開発してもらい、販売するのはどうか。 ・学校給食に高校の農産物を卸すのは難しいようだが、給食に農産物が使われれば子どもたち興味をもってくれると思われるので「野菜づくり教室」などを行い支援したらどうか。 ・ネーミングや価値を考えるのもマーケティングにつながるのではないかと。「モノ」で止まらず「価値」を売ることに着目する販売方法を考えてはどうか。 ・キッチンカーは平日使えるので、平日の夕方どこか場所を借りて一緒にカフェや農産物販売の店を開くのはどうか。 ・商業科も何らかの形でフェイスブックに参加してはどうか。	・教職員の資質向上を図るため、コンプライアンス研修を含むさまざまな研修を実施したが、講義体型での研修が中心で先生方が協議する機会が少なかった。次年度は、グループに分かれて話し合い、発表する体型を増やし、さらなる資質向上につなげていきたい。 ・情報セキュリティの問題上、すべての課にホームページを更新することは、難しいかもしれないが、できるだけ校務分掌にお願いして更新していきたい。 ・教育課程、学習活動等について学校ホームページの内容を更新・充実させ、本校の魅力をアピールする。
		活動計画 ①-1 コンプライアンス、特別支援教育などの研修会を実施する。 ①-2 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図る。 ①-3 「報告・連絡・相談」の徹底を図り、教職員間の共通理解を深める。 ①-4 情報セキュリティポリシーを遵守し、情報漏洩防止を図る。 ②-1 パソコン講座等を実施する。 ②-2 部活動や専門教育を通してボランティア活動を推進する。 ③-1 保護者や地域に、本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムな情報を提供できるよう、ホームページの更新や充実を図る。 ③-2 体験入学において、本校の特色ある学習内容に関する講座を開講する。	活動計画の実施状況 ①-1 コンプライアンス研修4回、教育相談ケース会議、AED講習会、人権教育4回、特別支援教育、学校改善に関する研修(鳴教大教授)各課の資料作成等に利用し、時間短縮等校務の効率化が図れた。 ①-2 職員の組織的対応により生徒の問題行動や保護者・地域への対応など適切に対応した。 ①-4 職員会議等を利用し、情報資産等の管理に関する研修を行った。 ②-1 地域の食材料理(6名参加)、伊勢ジヤムづくり(7名参加)、藍染め(12名参加)、パソコン入門(3名参加)、クリスマスづくり(4名参加) ②-2 押し花アート講習会10回(延53名参加)、地元小学校への出前授業2回(6名参加)、はちみつ祭り2回(12名参加)、阿波市フェスタ(20名程度参加)、ユリの花祭り(7名参加)、鴨島児童館子どもゆめまつり(8名参加)、吉野川市ちびっこドームフェスティバル(5名参加)等 ③-1 ホームページは各行事の状況や保護者等に伝えなければならないことをその都度リアルタイムで発信した。 ③-2 押し花(18名参加)、藍染め(17名参加)、食品製造(24名参加)、簿記入門・プログラミング入門(65名参加)、接客実習(25名参加) 中学生149名、保護者20名、引率教員19名参加			

平成27年度学校評価総括評価表

自己評価			学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
2 確かな学力の育成	(全体レベル) 1) 基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。 2) 個性の伸張を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストを育成する。 (下位組織レベル) ①基礎学力の向上に向けた取り組み ①学校関係者評価アンケートの実施 ①読書習慣の定着 ①図書室の魅力の向上 ②各種資格取得の奨励と補習体制の構築による合格率の向上 ②体験的・実践的な農業・商業教育の推進	評価指標 ①-1 学力向上に関する職員研修・委員会の実施 各学期1回以上 ①-2 学校評価アンケート ・生徒授業満足度 80%以上 ・職員授業充実度 80%以上 ・保護者学力向上・学習内容充実度 70%以上 ・基礎学力の取り組み満足度 80%以上 ①-3 校内読書会の実施回数と参加者数 6回 120人 ①-4 貸出冊数 3,000冊 ①-5 読書感想文の応募数 260人 ①-6 図書室だよりの発行回数 10回 ①-7 図書室蔵書の満足度 90% ①-8 図書室入室者数 5,000人 ①-9 朝読週間の実施回数 年10回 生徒満足度 75%以上 ----- ②-1 [農業] ・日本農業技術検定3級(農業科1年) フラワー装飾・園芸装飾技能検定3級(生物活用科3年) 受験率:95.0%以上 合格率:80.0%以上 [商業] ・全商3級1種目以上 取得者100% ・全商2級1種目以上 取得者70% ・全商1級1種目以上 取得者30名 ・全商1級2種目以上 取得者10名 ・全商1級3種目以上 取得者5名 ・日商簿記2級合格 1名 ・ITパスポート合格 1名 ②-2 県教育委員会等主催の「特色ある取り組みに関する各種事業」の実施 3事業以上	評価指標の達成度 ①-1 職員研修・学力向上委員会 計2回実施 ①-2 ・生徒授業満足度 78.3% ・職員授業充実度 85.7% ・保護者学力向上満足度 73.6% 保護者学習内容充実度 73.3% ・生徒基礎学力満足度 60.8% 職員基礎学力満足度 91.8% ①-3 校内読書会 6回実施(158人参加) ①-4 貸出冊数 2,652冊 ①-5 応募数 356人 ①-6 発行回数 10回発行 ①-7 1月のアンケート結果 84% ①-8 入室者数 5,188人 ①-9 朝読週間 実施回数 11回 生徒満足度 77.0% ----- ②-1 [農業] ・日本農業技術検定3級 合格率89.5%(34/38) ・フラワー装飾検定3級 受験率100%(6/6) 合格率100%(6/6) ・園芸装飾検定3級 受験率75%(9/12) 合格率100%(9/9) [商業] ・全商3級1種目以上 取得者82.3% ・全商2級1種目以上 取得者39.1% ・全商1級1種目以上 取得者13名 ・全商1級2種目以上 取得者1名 ・全商1級3種目以上 取得者0名 ・日商簿記2級合格 未受験 ・ITパスポート合格 未受験 ②-2 「TOKUSHIMA消費者教育活性化事業」や「専門高校コンソーシアム事業」、「高校生キャリアアップ推進事業」を計画通り実施	評定 B 総合評価 B (所見) ・学力向上への取り組みで教職員と生徒・保護者の満足度に隔たりがある。基礎学力診断テストや課題テストの客観的評価から学力の定着度を知り改善を図る必要がある。 ・朝読週間では、ほとんどの生徒が前向きに読書を行っているが、前年度に比べて本の貸出冊数は減少している。今後は、生徒が読みたい本を増やし、図書室の利用者を増やしていく。 ・検定取得者の割合は、目標値より低い。特に1級取得者が大きく減少している。今後とも各生徒に資格取得の意義を教え、目標を達成するために補習等の充実を図っていく。 ・特色ある取り組みを実践することにより、地域に根ざした学校づくりを推進する。	学校関係者の意見 ・昨年度よりも学期末の平均点が上がって学力に向上がみられるということだが、学科ごとに調べて比較してみてはどうか。 ・Workshopなど外部の機関を利用した授業展開に取り組む。 ・農産物販売や商品開発での利益を実感できれば意欲がわき、学習への取り組みも向上する。同じように基礎学力についても1年の始めと終わりの変化を見せて向上していることを実感させることが必要である。 ・資格取得のために補習を充実させている点は大きい評価できる。資格取得とともに企画力と協調性のある生徒を育ててほしい。 ・商業科の生徒が農業科の生徒と共にフォークリフトの資格に挑戦していることは望ましい傾向だと思われる。 ・読書の習慣を身につけることは良い取り組み。企業が人材育成する上で、国語力は大切。どの分野でも文字を読む習慣をつけることが重要である。 ・生徒が継続して本を借りないという傾向が問題。HR活動を利用する方法もあるのでは。 ・外部に出て活動した生徒は意識が高くなるが、全体に行き渡っていない。 ・県の農業大学校と「阿波すず香」の連携を進めて欲しい。	・生徒の基礎学力がどの程度身につけているかを知る客観的なデータを得るため国語、数学、英語に関して年度初めと年度末に同じテストを行い、その指標とする。 ・図書委員を中心にクラスで読書の楽しさや大切さを理解させる活動を取り入れる。 ・各資格取得の合格率を維持するとともに、受験率を100%に引き上げたい。 ・資格取得の意義を再度教え、取得者を一人でも多く増やすために、補習のあり方を見直し、充実を図っていく。
		活動計画 ①-1 学力向上委員会において取り組みの検証を行う。 ①-2 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケートを実施する。 ①-3 希望者を募り、校内読書会を実施する。 ①-5 読書感想文コンクールに応募する。 ①-7 蔵書満足度向上のため購入希望図書アンケートを実施する。 ①-9 毎月1週間朝読週間を実施する。 ----- ②-1 資格試験の実施に関して、生徒への周知を徹底する。また、取得率向上に向けて、補習体制を強化する。 ②-2 実施計画書に基づいて実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 学力向上委員会を1回開催し、課題テスト等について改善策を話し合った。また、職員研修として基礎学力診断テストの説明会を行った。 ①-2 全校生徒並びに保護者・教職員にアンケート調査を実施し、状況把握に努めた。 ①-3 図書委員を中心として実施している。 ①-5 青少年読書感想文全国コンクール(毎日新聞主催)に4作品に応募し県入選を果たした。 ①-7 図書室を利用した生徒に希望図書の調査を行い、購入している。 ①-9 毎月実施し、77%の生徒が充実していると回答した。 ----- ②-1 商業科では電卓検定や簿記検定の補習を2週間実施した。農業科ではフラワー装飾や園芸装飾を10日間、日本農業技術検定は30日以上補習を実施した。 ②-2 ・食の安全・安心を目指すためパッケージデザインやポップ及び広告を考案。 ・養蜂技術の習得。 ・地元企業のインターンシップ等を行うとともに高度な資格取得を目指す。			
		備考 評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成				

平成27年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
3 生徒指導の徹底	(全体レベル) 1) 基本的な生活習慣を確立を図り、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。 2) 教職員の共通理解を図り、保護者、地域社会との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 3) 教職員間での情報の共有化を推進する 4) 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・早期対応に努める。 5) いじめ防止等対策委員会の校内体制の運営に努める。 (下位組織レベル) ① 日常的な生活指導による基本的な生活習慣の確立 ① 集会時や職員室・進路指導室入室時の服装の整備の徹底 ② 保護者、地域社会、関係機関との連携を密にした指導の実践 ③ 教職員間での情報の共有化並びに連携強化 ④ 常時指導と組織的な対応を継続 ⑤ 常時指導と組織的な対応を継続	評価指標 ①-1 校門での登校指導実施率 100% ①-2 校外巡視の実施 週1回以上 ①-3 頭髪服装一斉指導時における違反率 各学年5%以下 ①-4 ネクタイ・リボン・靴下・第一ボタンの整備の徹底 100% ①-5 道徳教育の充実 LHR年3回実施 ②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時 ③ 学年別の情報交換会実施 每学期1回 ④ いじめのアンケート実施 年2回 ⑤ いじめ行為等の事案が発生したらすみやかに委員会を開き適切に対応 随時	評価指標の達成度 ①-1 校門での登校指導実施率 100% ①-2 校外巡視の実施 週1回実施 ①-3 頭髪服装一斉指導時における違反率 1年 3.54% 2年 4.00% 3年 4.41% ①-4 ネクタイ・リボン・第一ボタンの整備の徹底 100% ①-5 道徳教育の充実 LHR3回実施 ②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時 ③ 学年別の情報交換会実施 各学期1回実施 ④ いじめのアンケート実施 3回実施 ⑤ 委員会の開催なし	評価 ①-1 校門での登校指導実施率 100% ①-2 校外巡視の実施 週1回実施 ①-3 頭髪服装一斉指導時における違反率 1年 3.54% 2年 4.00% 3年 4.41% ①-4 ネクタイ・リボン・第一ボタンの整備の徹底 100% ①-5 道徳教育の充実 LHR3回実施 ②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時 ③ 学年別の情報交換会実施 各学期1回実施 ④ いじめのアンケート実施 3回実施 ⑤ 委員会の開催なし	総合評価 B (所 見) ・アンケート結果から、生徒はあいさつについては8割以上、服装・頭髪については9割以上の生徒がきちんとしていると回答している。一方教職員は、あいさつについては6割の生徒しかきちんとできていないという回答であった。高校生が考える基準を社会で通用する水準まで引き上げるよう今後とも指導を継続していきたい。 ・校外での生徒の行動に関して、喫煙、ゴミのポイ捨て、自転車通学生の飛び出し、信号無視、傘差し運転や並進等について地域住民から苦情の電話があった。今後も登校指導・下校指導を継続し、マナーの向上や交通事故の防止に努めていきたい。 ・生徒指導上の諸問題は昨年度より増加し、特定の生徒の遅刻・欠席が多かった。学校生活に集中できていない生徒の指導も重要な課題の一つである。 ・今後も教職員の組織力の向上と共通理解を図り、地域住民や近隣中学校からも信頼され、愛される「吉野川高校」を目指していく。	・基本的生活習慣の確立、規範意識の向上を高めるため日々の生徒指導を徹底する。 ・教職員の共通理解を図り、一貫した生徒指導を推進するため常に意志の疎通を図る。 ・いじめの早期発見、早期対応に努めるため、日々生徒の学校生活を見守る教育活動を実践していく。 ・地域に愛され、必要とされる学校になるために学校全体として地域貢献に努める活動を実践していく。
		活動計画 ①-1 毎朝校門で頭髪・服装指導を中心とした登校指導を実施する。 ①-2 生徒指導課を中心とし、毎月1回、学校安全の日を実施するとともに登下校時に鴨島駅周辺での立哨指導も週1回は行う。 ①-3 生徒指導課を中心とし、毎月1回、全校集会時に頭髪服装検査を行い、事後指導・継続指導を徹底する。 ①-4 職員室・進路室入室や集会等においてネクタイ・リボン着用を徹底する。 ①-5 各学年ごとに指導計画を立て統一した指導を行う。 ②-1 職員朝礼において共通理解を図る。 ②-2 保護者や地域住民・補導センター等の苦情や相談に対して迅速かつ誠実に対応する。 ③ 年度初めには学年別に情報交換会を行い生徒の家庭環境や学校生活に関する状況を共有する。 ④ アンケートの結果により面談等を実施し、早期対応に努める。 ⑤ 事案が発生すれば迅速に組織的な対応を行う。	活動計画の実施状況 ①-1 毎朝校門で5～8名の職員による登校指導を実施し、服装・頭髪指導はもとより、遅刻指導についても強化した。 ①-2 学校安全の日における登校指導11回実施 鴨島駅周辺での立哨指導 30回実施 長期休業日中巡視(夏期9, 冬期8, 春期6予定) 23回実施 ①-3 頭髪服装指導徹底率(アンケート結果から) 教職員89.8% 生徒92.3% 保護者 91.7% ①-4 日頃からネクタイ・リボン着用について徹底して継続指導を実施している。 ①-5 各学年ごとに指導計画を立て統一した指導を学年会議で全体に確認しながら行った。 ②-1 職員朝礼において共通理解が必要な事項は随時連絡を密にし、意思の疎通を図った。 ②-2 苦情や相談が毎月3件程度あったので、立哨指導を実施するなど迅速かつ誠実に対応した。 ③ 年度初めには学年別に情報交換会を行い生徒の家庭環境や学校生活に関する状況等の情報を共有した。 ④ アンケートの結果により面談等を実施し、早期対応に努め、大事には至っていない。 最近いじめられたことがある(アンケート調査) 1年生(3名) 2年生(3名) 3年生(2名) ⑤ 上記のアンケート結果を受け、担任や相談課の面接で、いじめとされる事案は、友人関係のトラブルや本人の思い込みと判明した。			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成27年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
4 人権教育並びに 特別支援教育の推進	(全体レベル) 1) 普遍的・個別的な観点から学校教育全体 とおしての人権教育の推進する。 2) 自他を大切にす心や態度を育成する。 3) 特別支援教育を推進し、個々に応じた支 援を行う。 (下位組織レベル) ①人権学習ホームルーム活動の充実 ②人権啓発活動の充実 ③人権教育教職員研修の充実 ④教育相談体制の充実 ⑤特別支援の計画策定及び関係機関との 連携	①-1 人権学習ホームルーム実施回数 年5回 ①-2 人権学習ホームルーム活動についての 生徒の満足度 70%以上 ②-1 人権映画会の実施 年1回 ②-2 人権映画会の生徒の満足度 80%以上 ②-3 生徒の人権啓発活動への参加 ・中・高生による人権交流事業への参加 年5回以上 ・文化祭展示用ポスター・標語・書道作品 1年生全員提出 ・人権の日の人権委員による啓発活動回数 年10回 ②-4 人権教育教職員研修の実施回数 年3回 ②-5 “あわ”人権学習ハンドブックの活用 年5回以上 ③-1 教育相談教職員研修の実施回数 年1回 (それ以降は必要に応じて適宜) ③-2 特別支援教育研修会実施回数 年3回 ④-1 心と体の健康カードの活用 年2回 ④-2 カウンセリング室の開放 週1回 ④-3 二者面談・三者面談に同席(適宜) ⑤-1 特別な支援を必要とする生徒の就労体 験・実習協力事業所の確保 10社以上 ⑤-2 特別な支援を必要としていた卒業生の 継続支援 延べ7社以上	①-1 人権ホームルーム 5回実施 ①-2 生徒の満足度 68.3% ②-1 11月17日実施 ②-2 生徒の満足度 93% ②-3 ・人権交流事業への参加 9回参加 ・人権標語提出 97% ポスター 美術選択者のみ全員提出 書道作品は書道部員が提出 ・人権の日における啓発活動 9回実施 ②-4 職員研修(HR活動研修含む) 7回実施 ②-5 人権学習ハンドブックの活用 5回実施 ③-1 教育相談職員研修 1回実施 ③-2 特別支援教育職員研修 3回実施 ④-1 全校生徒へのアンケート実施2回 ④-2 カウンセリング室開放 毎週水曜昼休に開放 ④-3 教育相談三者面談 28回実施 ⑤-1 就労体験・実習協力事業所の確 保と参加者数 16社確保、延べ15名参加 ⑤-2 職場訪問による継続指導 3社訪問、延べ8名支援	B	A
		①-1 人権教育主事と学年主任・担任との連 携を図る。 ②-1 人権映画鑑賞によって人権意識を高め る。 ②-3 生徒の人権啓発活動への参加を推進す る。 ②-4 人権問題の実態から学ぶ研修を実施す る。 ③-1 気になる生徒に対しては、適宜ケース 会議を実施する。 ③-2 特別支援教育の理解を進めるため、研 修会を実施する。 ④-1 特別な支援が必要な生徒に対しての相 談活動を推進する。 ④-2 カウンセリング室を解放することによ り生徒個々の状態を把握するとともに 生徒が相談しやすい環境作りを努める。 ④-3 みなと高等学園他、関係機関との連携 ・相談を図る。 ⑤-1 外部機関と連携を深めるとともに、企 業訪問を行う。 ⑤-2 職場訪問をし、継続支援を行う。	①-1 本校の人権教育の年間計画にそってホ ムルーム活動の実施に向けての事前研修 会を予定通り実施した。 ②-1 「人生いろいろ」を視聴し、さまざまな 人権について意識を高めた。 ②-3 人権の日の啓発活動として人権委員に による啓発発表を実施した。(1学期2回,2学 期4回,3学期3回) ②-4 ハンセン病回復者の人権についての職員 研修を実施した。 ③-1 教育相談職員研修を5月に実施し共通理 解をもった。そして外部の連携機関との ケース会議を14回実施した。 ③-2 本校の特別支援教育(就労支援を中心) の研修会を実施した。 ④-1 特別な支援を必要とする生徒との面談を 18回、保護者との面談を28回実施した。 ④-2 カウンセリング室利用について啓発用パ ンフレットを各教室に掲示したり文書を 保護者に配布し、延べ57名の相談を実施 した。 ④-3 みなと高等学園、発達障がい者総合支援 センター等と連携を図り、保護者・生徒 の相談を実施した。 ⑤-1 障がい者就業・生活支援センター等と連 携を深め、16社の企業訪問を実施した。 ⑤-2 卒業生の職場を訪問し、生徒の状況を確 認でき、事業所からの相談を受けた。	A	A

【備考】評価における「評定」の基準】A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成27年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
5 進路指導の充実	(全体レベル) 1) キャリア教育を通して望ましい勤労観・職業観の育成と自らの将来設計の構築を図る。 2) 進路情報の的確な提供による進路指導の充実を徹底する。 3) 進路先の確保並びに定着化のための指導体制の充実に努める。 (下位組織レベル) ①キャリア教育全体計画の策定とそれに基づいた取組の推進 ②生徒理解を深め個に応じたきめ細やかな進路指導の徹底 ③個々の進路希望に応じた進路開拓の推進 ④進路指導の力量を高めるため、教職員研修を実施	評価指標 ①-1 外部講師招聘回数 3回 ①-2 校内・校外が「ガイダンス」実施 各3回 ①-3 オープンキャンパス参加率 100% ①-4 進路補習実施 生徒の満足度80%以上 ①-5 企業見学・職場体験の実施 20事業所程度 ①-6 内定後の「インターシップ」の実施 7事業所 ②-1 保護者への説明および情報提供 2回 担任の面談実施回数 各人2回以上 ②-2 1・2年進路HR活動の実施 4回 ②-3 就職・進学資料の提供 5回程度 ②-4 特別支援を必要とする生徒の進路相談 随時 ③ 企業訪問の実施 年間 200事業所 ④ 学年ごとに教員研修会を実施 2回	評価指標の達成度 ①-1 外部講師招聘回数 4回 ①-2 校内・校外が「ガイダンス」 校内2回・校外2回 ①-3 オープンキャンパス参加率100% ①-4 進路補習の実施 夏休み9日 ①-5 企業見学・職場体験の実施 37事業所64名 ①-6 内定後の「インターシップ」は実施なし ②-1 保護者への情報提供 1回 三者面談実施 1回 ②-2 1・2年進路LHR実施 4回 ②-3 就職・進学資料の提供 5回 ②-4 進路相談 27名 ③ 企業訪問 131事業所 ④ 学年別職員研修会 1回	評価 ① B ② B ③ C ④ C	・職場訪問は、職場開拓も兼ねて行っているとのことであるので評価できる。 ・コミュニケーション力、会話力を高める必要がある。 ・就職試験に来て欠席の多い生徒に理由を聞いてもはっきり言わないので、事業所としては、ざっくばらんに言ってほしい。 ・学んだ専門知識や技術を発揮できるような職場を開拓していきたい。 ・生徒の進路に関する意識の向上等に向けて、本校におけるキャリア教育を体系的に実施できるよう再構築していきたい。	・生徒の進路希望を反映して企業開拓を行うとともに、卒業生のいる職場については、機会をみて訪問し、継続して就業していけるように企業との連携を図る。 ・コミュニケーション力、会話力が高められるように進路ガイダンス・講演会等の講師に工夫をしていきたい。 ・基礎学力、基本的な生活習慣と専門的知識・技術を身につけさせ、生徒と保護者の望む進路実現に向けて支援していく。 ・各種ガイダンス・オープンキャンパス等進路に関する説明会への積極的な参加を促すことにより情報収集に努めさせ、進路選択の不適応を図る。 ・生徒の早い時期からの目標設定と実現につながる指導を図る。 ・進路を見据えた資格取得の奨励に努める。
		活動計画 ①-1 ビジネスマン講座等において外部講師の活用を図る。 ①-2 分野別、職業体験型、就職・進学説明会を実施する。 ①-4 就職・進学に向けた5教科の補習を実施する。 ②-1 保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施する。 ②-2 「キャリアノート」を活用した進路HR活動を実施する。 ②-3 求人票の写しや業者からの雑誌を配布する。 ②-4 支援が必要な生徒に対し、担当教員や外部組織と連携し進路指導を進める。 ③ 新規の企業訪問を実施するなど、積極的な進路開拓を行う。 ④ 学年会等を活用し、進路指導の研修を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 P T A総会時に3年生対象のキャリア教育講演会(5月)と就職ガイダンス(就職希望者86名:8月)を、1・2年生対象の進路講演会(12月)と進路ガイダンス(3月)を実施した。 ①-2 校内では、1・2年生対象に5月の進路ガイダンス(22講座)と10月の体験型進路ガイダンス(23講座)を実施した。校外では、6月・2月の進路ガイダンスに希望者が参加した。 ①-4 5教科の補習は、9日間(7/21~7/31)実施し、延べ183名が受講した。 ②-1 P T A総会において、進路ガイダンスや保護者面談を実施した。また、夏休みには三者面談を実施した。 ②-2 「キャリアノート」を活用し、就職に必要な自己PR、面接トレーニング等を実施した。 ②-3 求人票の写し、県や業者からの就職・進学に関する雑誌等を配布した。 ②-4 障がい者職業支援センターやハローワーク等と連携し、就職支援を行った。 ③ 新規の企業訪問を実施し、進路開拓企業5社であった。 ④ 3年学年会において、調査書の作成、面接等の指導について職員研修を実施した。			
		(所見) ・外部講師によるガイダンスの実施や講演会を実施した。特にP T A総会時の進路ガイダンスでは、保護者の方にも参加していただき詳細な情報提供を行うことができた。今後は、保護者の参加者を増やし、就職や進学について深く知っていただきたい。				
		・企業訪問の実施は、200事業所を達成した。また、インターシップの実施も7事業所を達成した。				

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成27年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
6 活力ある特別活動の推進	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 生徒会活動・ホームルーム活動・学校活性化を図る。</p> <p>2) 1年生の部活動全員加入による部活動の活性化を図る。</p> <p>3) 地域の環境整備に努める。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①生徒会活動,ホームルーム活動の活性化</p> <p>①学校行事の活性化</p> <p>②部活動の活性化と学校リーダーの育成</p> <p>②農業クラブ活動の活性化</p> <p>③自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 生徒会活動に対する満足度 70%</p> <p>①-2 あいさつ運動実施 10回以上</p> <p>①-3 ホームルーム活動の充実度 70%</p> <p>①-4 各種委員会の充実度 70%</p> <p>①-5 学校祭の満足度 75%</p> <p>②-1 部活動加入率 1年100%, 2・3年70%</p> <p>②-2 各部主将・部長会 年3回以上</p> <p>②-3 各科での取り組みと目標</p> <p>(商業)</p> <p>情報処理競技会・電卓競技会・ワープロ競技会・簿記コンクール・意見体験発表大会・商業研究発表・簿記新人大会 3位以内</p> <p>(農業)</p> <p>農業クラブ県予選会において最優秀賞受賞 2部門以上</p> <p>押し花アート,フラワーアレンジメント等のコンクール出展 全国入賞: 1作品以上 県内入賞: 5作品以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 生徒会活動に対する満足度 85.7%</p> <p>①-2 あいさつ運動 11回</p> <p>①-3 充実度(アンケート) 87.4%</p> <p>①-4 充実度(アンケート) 77.0%</p> <p>①-5 満足度(アンケート) 81.6%</p> <p>②-1 1年生100%, 2年生84%, 3年生70%</p> <p>②-2 各部主将・部長会 2回</p> <p>②-3 (商業) 各種目において県大会に出場したが, 上位入賞には至らなかった。</p> <p>(農業) 意見発表(区分: 食料・生産) 四国優秀賞受賞</p> <p>意見発表(区分: 文化・生活) 四国優秀賞受賞</p> <p>プロジェクト発表(食料・生産) 四国優秀賞受賞</p> <p>農業鑑定競技会(園芸) 全国大会出場</p> <p>押し花アート 県内: 最優秀1作品入賞 其他7作品入賞 全国: 優秀1作品, 審査員特別賞1作品, 佳作1作品</p>	<p>評定 A</p> <p>総合評価 B</p> <p>(所見)</p> <p>・あいさつ運動では生徒会が, 大きな声であいさつを行うなど積極的に取り組んでいる。また, 生徒会役員がクラスでもリーダーとなるなど, 様々な学校行事において活躍している。</p> <p>・部活動入部率は全体で86%と高くなっており, 部活動が昨年度より活発になってきている。今後は技術面の向上はもとより, こころ一番で力を発揮できるように精神面の強化をするなど, 魅力ある部活動となるためにさらに活性化を図りたい。</p>	<p>・来校した際に生徒からあいさつをしてくれ, 大変好感がもてた。あいさつが習慣となるよう, 今後とも継続して指導していただきたい。</p> <p>・自信を持ってあいさつができるようになるためには, 自己肯定感を高める必要がある。スクールカフェやアグリ吉野川での体験を生かして自分に自信をつけることが重要だ。</p>	<p>・年々商業・農業の大会や競技会への取り組みは積極的に参加し, 成果がでてきている。さらに部活動, 生徒会活動に対する生徒の考え方や意識も向上してきた。それにともない, あいさつや言葉づかいなども少しずつ適切になってきたが, まだ十分とはいえない。次年度は, これらをより一層高めるため, 生徒会を中心に生徒と教員の対話の機会を増やすよう計画をしていく。そして生徒と学校が一つになって, よりよい方向へ進んでいくよう努力していきたい。</p> <p>・部活動の加入率は, 年々増加しているが, 女子運動部の加入率が低いので, 特色選抜の事前面接等を積極的に活用していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 生徒が自発的に活動し, 学校生活の充実や改善について指導する。</p> <p>①-2 校門であいさつ運動を毎月実施する。</p> <p>①-3 社会的・職業的自立に関するホームルーム活動の実施</p> <p>①-4 各代表生徒を中心に鴨島駅周辺・通学路の清掃活動等を生徒が主体となった活動を実施する。各環境委員を中心に地域の方と連携し, 江川周辺の環境整備活動を実践する。</p> <p>①-5 生徒会を中心に企画立案した学校祭を開催する。</p> <p>②-1 部員を積極的に勧誘し活性化を図り, 女子運動部の入部率を向上させる。部活動紹介や勧誘方法を工夫する。</p> <p>②-2 各部主将・部長を中心にルール・マナーの向上を指導させる。</p> <p>②-3 各部による活発な競技活動の展開を目指す。プロジェクト発表及び意見発表について, 専任の教員が担当する。各顧問等の指導によりアグリクラブでの質の高い作品作りを展開する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 朝のあいさつ運動, 球技大会, 各種大会壮行会等を生徒会が中心となり実行した。</p> <p>①-2 1学期4回(6日), 2学期4回(7日), 3学期3回(7日)実施した。</p> <p>①-3 ホームルーム活動は, 進路, 人権, 防災等に関して15回実施した。</p> <p>①-4 校門前でのあいさつ運動は毎月実施しているが, 地域等でのボランティア活動等は生徒会として実施できていない。ボランティア部等の生徒が, 江川周辺の環境整備を行うとともにユリの花祭りに協力した。</p> <p>②-1 4月に部活動紹介を実施したが, 今後とも各顧問が積極的に声かけを行い, 勧誘していく。</p> <p>②-2 年度初め, 総体前の2回校内外での生活, 大会出場時や応援時のマナー等について指導した。</p> <p>②-3 商業に関する競技会や発表会では思うように結果は出なかった。また, 農業クラブにおける意見発表, プロジェクト発表はともに県大会を勝ち抜き四国大会へと駒を進め優秀賞を受賞した。農業鑑定競技会では全国大会に出場した。押し花アートは, 放美展に出品し, 最優秀1作品, その他5作品が入賞した。全国大会では, 2席にあたる優秀賞を獲得したほか2作品が入賞した。</p> <p>・商業科における発表や競技会については, 十分な成果を上げることにはできていない。今後, 商業関係の部活動の活性化を図るとともに商業関係科目への学習意欲の強い生徒を中心に取り組んでいきたい。</p> <p>・農業科については各大会において四国大会, 全国大会に出場したり, 押し花アートは, 多くの賞を受賞し, 成果を上げている。今後とも工夫を凝らしながら指導を継続していく。</p>			

【備考】評価における「評定」の基準 A: 100%達成 B: 80%以上達成 C: 80%未満~70%以上達成 D: 70%未満~60%以上達成 E: 60%未満達成

平成27年度学校評価総括評価表

自 己 評 価			学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価					
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価			
7 防災・環境教育の推進	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。</p> <p>2) 新学校版環境 I S O 認定校として実践を推進する。</p> <p>3) 食の安全・安心の観点からの教育を推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①安全教育の充実</p> <p>①効果的な防災教育の計画・実践</p> <p>①有効適切な防災避難訓練の企画と展開</p> <p>①適切な保健管理</p> <p>①自己の健康管理能力の育成</p> <p>①適切な健康相談活動</p> <p>②節電・節水・ゴミの分別の徹底</p> <p>②校内の美化</p> <p>②正しい農薬散布の徹底と事故防止</p> <p>③食育の実施</p>	<p>①-1 防災に関する情報提供 月1回</p> <p>①-2 避難訓練 年2回実施</p> <p>①-3 防災クラブの活動 年5回以上</p> <p>①-4 保健だよりの発行 10回</p> <p>①-5 各種講演会の実施 年3回</p> <p>①-6 健診結果を通知 随時</p> <p>①-7 心身の健康に関する保健調査 年2回</p> <p>②-1 電気・水道の使用量が、前年度を下回る。</p> <p>②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 80%以上</p> <p>②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 80%以上</p> <p>②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 前年度比50%削減</p> <p>③-1 給食センターへの農産物納品 3回</p> <p>③-2 食育通信の発行 2回</p> <p>③-3 食育関連講習会の実施 3回以上</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 防災計画を周知徹底すると共に、防災情報を提供する。</p> <p>①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所の確認をする。</p> <p>①-3 学校内外で活動を行い、その活動内容を報告する。</p> <p>①-4 保健だよりを発行する。</p> <p>①-5 性教育講演会・心肺蘇生法講習会・熱中症対策講習会を実施する。</p> <p>①-6 健診結果を保護者に通知する。</p> <p>①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握する。</p> <p>②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行う。毎日HR日誌にエコチェックを記入してもらい、必要に応じて生活の見直しを促す。</p> <p>②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行う。</p> <p>②-3 クリーンデイの実施と環境美化委員会による清掃活動を行い、状況等についてアンケート調査を行う。</p> <p>②-4 適正な農薬散布を徹底する。</p> <p>③-1 地産地消並びに食の安全・安心の観点を踏まえた農産物の提供を行う。</p> <p>③-2 食育通信を発行し、生徒・保護者へは文書とホームページ上で食育の啓発を行う。</p> <p>③-3 食育講演会やPTA研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し、食事の重要性を呼びかける。</p>	<p>①-1 防災に関する情報提供 月1回</p> <p>①-2 避難訓練 2回実施</p> <p>①-3 防災クラブの活動 5回</p> <p>①-4 保健だよりの発行 10回</p> <p>①-5 各種講演会の実施 4回</p> <p>①-6 検診結果の通知 5～7月通知</p> <p>①-7 保健調査実施 2回</p> <p>②-1 電気の使用量 前年0.4%上回る 水道の使用量 前年9.0%上回る</p> <p>②-2 アンケート調査 生徒 85.5% 職員 87.8%</p> <p>②-3 アンケート調査 生徒 71.3% 職員 83.6%</p> <p>②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 前年度比30%削減</p> <p>③-1 給食センターへの農産物納品0回</p> <p>③-2 食育通信の発行 1回</p> <p>③-3 食育関連講習会の実施 1回</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 防災計画を作成し周知徹底すると共に、月に一度防災情報を提供した。</p> <p>①-2 5月・10月に避難訓練を実施した。</p> <p>①-3 防災に関する研修会、救急救命講習、防災士養成講座、避難訓練、文化祭での校内活動等、校内外で活動した。</p> <p>①-4 内容はインフルエンザ対策、食中毒、熱中症、歯周病、アルコールの害等である。</p> <p>①-5 心肺蘇生法講習会、熱中症対策講習会、がん対策講演会、冬の感染症対策講演会を実施した。</p> <p>①-6 各健診ごと3週間以内に保護者宛に通知した。</p> <p>①-7 就寝・起床時間、朝食、友人関係等の調査を行い、心身の健康課題把握に努めた。</p> <p>②-1 毎日HR日誌にエコチェックを記入したりして、生活の見直しを行ったが、水道電気ともに使用量が前年を上回った。</p> <p>②-2 清掃活動等について生徒・職員にアンケート調査を行った。</p> <p>②-3 クリーンデイを月に1度実施した。また環境美化委員(各学年ごと)が清掃活動や清掃点検を行った。</p> <p>②-4 毒劇物については果樹のみで使用している。スプライト(殺虫剤)</p> <p>③-1 給食センターへの農産物納品は、期日・数量等が決まっていたため、調整ができず実施しなかった。しかし、JA農産市や各種イベント等で野菜等の販売を行った。</p> <p>③-2 食育通信を発行し、生徒・保護者への啓発を行った。</p> <p>③-3 夏休みに家庭クラブ・PTA合同の料理講習会と家庭クラブ行事「食の講演会」を実施し、食育の啓発を行った。</p>	A	B	(所見)	<ul style="list-style-type: none"> ・防災対策として防災マップを活用し、生徒に危険箇所の把握をさせる必要がある。 ・災害時の支援スタッフとして、高校生に期待が寄せられている。防災クラブ等の取り組みを生かし、意識付けに努めてほしい。 ・食育通信の作成に家庭科以外の教員や生徒も参加することが望ましい。作成に携わることで、どうすれば多くの人に読んでもらえるかを考えることができる。 ・本年度発足した防災クラブの活動の1つとして地域との連携により、いろいろな実践的スキルを身につけることができた。さらに、身につけたことを文化祭等で実演し、校内で広めることができた。 ・各種講演会や健康診断事後指導は、少しずつ生徒の健康管理意識を高める機会となっている。 ・水道量が昨年度を上回った理由として漏水の影響が考えられるが、普段の生活もさらに見直す必要がある。 ・毎日、清掃に取り組んでいるが、ゴミが落ちていることから、日常生活マナーが十分守られていないことがうかがえる。マナーを守ることができる生徒育成に努めたい。 ・地元小中学校への農産物供給は今後の検討課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・吉野川市防災マップをもとに通学路、避難経路の危険箇所を確認し、本校独自の防災マップを作成していきたい。 ・防災クラブの取り組みを計画的、積極的に行い、クラブ員一人一人の防災意識を高めていきたい。 ・農薬の使用については、食の安心・安全の面から最低限の使用量にしており、引き続き実施していきたい。阿波市の給食センターが合併したので、農産物の納品量が多くなり対応できなくなった。今後、別な形で提供できるよう検討していく。 ・食育通信の内容については、農業科・商業科・PTAの協力を得ながら家庭科教員が編集を担当し発行している。今後分担するなどして取り組んでいきたい。 ・食育に関する講演会の内容についても新たな取り組みを模索し、生徒の食に関する意識を高めたい。

【備考】評価における「評定」の基準 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成